



森の生長 (仙台 輪王寺参道)



2008年植樹



2015年 7年後の様子

育苗センター (岩沼市寺島)



森の防潮堤協会 活動内容

- 「いのちを守る森」並びに「森の防潮堤」創造事業
- 育苗事業、植樹事業、メンテナンス事業
- 研究・開発事業 設計・コンサルティング事業
- 情報発信・情報収集とネットワークづくり事業 等

ご寄付のお願い

地域性ドングリの採取、苗木づくり等すべて皆様からのご寄付によって成り立っております。活動の推進のためにも、「森の防潮堤協会」の活動にご理解、ご賛同いただき、末永いご支援をお願い申し上げます。

七十七銀行 二日町支店
 普通口座 5623677 口座名義 一般社団法人 森の防潮堤協会 代表理事 日置道隆
 ゆうちょ銀行振替口座 ※郵便局の「振込取扱票」にてお振込可能です。
 口座記号番号 02270-8-134087 加入者名 一般社団法人 森の防潮堤協会



これまでの歩み

- 2003. 9月 輪王寺での苗木づくりが始まる
- 2004. 6月 宮脇昭先生指導による第1回輪王寺植樹祭 (900本植樹)
- 2005. 4月 第2回輪王寺植樹祭 (10,000本植樹)
- 2006. 6月 第3回輪王寺植樹祭 (6,000本植樹)
- 2007. 5月 第4回輪王寺植樹祭 (10,000本植樹)
- 2008. 7月 第5回輪王寺植樹祭 (1,500本植樹)
- 2009. 6月 いのちの森づくり国際シンポジウム開催
- 2010. 4月 輪王寺アースデイ開催 (740本植樹)
- 2011. 3月 東日本大震災
- 2011. 7月 地域性種子採取開始
- 2011. 7月 いのちを守る森づくり 仙台市海岸公園冒険広場植樹祭
- 2011. 7月 いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会設立
- 2012. 3月 いのちを守る森の防潮堤プロジェクト推進シンポジウム開催
- 2012. 5月 岩沼市空港南公園植樹祭共催 (岩沼市「千年希望の丘」プロジェクト実証実験)
- 2012. 7月 ポット苗づくり・育苗研修会開催
- 2012. 11月 ドングリ採取ツアー開催
- 2013. 6月 岩沼市第1回千年希望の丘植樹祭 2013 (30,000本植樹) 共催
- 2013. 6月 国土交通省「岩沼海岸植樹式」主催
- 2014. 3月 「夢と希望のまちづくり講演会」主催
- 2014. 5月 岩沼市第2回千年希望の丘植樹祭 2014 (70,000本植樹) 共催
- 2014. 7月 岩沼市空港南公園植樹祭主催
- 2014. 9月 第1回岩沼市千年希望の丘植樹祭 2014 主催
- 2014. 9月 岩沼市に「千年希望の丘」育苗センター開設
- 2015. 3月 第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム森の防潮堤推進シンポジウム主催
- 2015. 3月 天皇皇后両陛下「千年希望の丘」御供花
- 2015. 4月 いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会から一般社団法人 森の防潮堤協会へ
- 2015. 5月 国土交通省「緑の防潮堤・岩沼海岸植樹会」協力
- 2015. 5月 岩沼市第3回千年希望の丘植樹祭 2015 (50,000本植樹) 共催
- 2015. 6月 第2回岩沼市千年希望の丘植樹祭 2015 主催
- 2015. 9月 (予定) 第3回岩沼市千年希望の丘植樹祭 2015 主催
- 2116. 5月 (予定) 岩沼市第4回千年希望の丘植樹祭 2016 (100,000本植樹) 共催
- 2017. 5月 (予定) 岩沼市第4回千年希望の丘植樹祭 2017 (40,000本植樹) 共催

※岩沼市「千年希望の丘」植樹祭では実証実験より唯一共催を務めてきました。

未来の子供たちへ 私たちに今できること

いのちを守る森の防潮堤をつくらう!

理事長あいさつ

平成23年7月31日に発足した「いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会」が、平成27年4月8日、「一般社団法人 森の防潮堤協会」に生まれ変わりました。御支援戴いている多くの皆様に感謝申し上げます。

私たちが目指している「いのちを守る森の防潮堤」は、海岸線に生えるべきいろいろな種類のふるさとの木々を市民の力によって植樹することで、森の力を再生します。それは未来の子供たちのいのちと財産と心を守る取り組みです。多層群落からなる森はまさに「生命の塊」です。植物・動物・微生物が複雑かつ密接につながり合い、全体のバランスが保たれます。この状態こそが強い生命力を生み出すのです。

無限のいのちの宝庫である森の中では、生き物たちがいがみ合い、競争しながら、いのちをつなげようと必死に生きています。生物多様性こそが自然の掟であり、このような森こそが自ずと永年存続します。いかなる災害が襲ってきても、森全体の生きようとする意志がしなやかな強靭さとなり、私たちを守ってくれるのです。

現代文明と自然をいかに調和させるのか。私たちは今、新たなステージに立っています。「いのちを守る森の防潮堤」は、自然と共に生きるための礎になるはずで。私たちは、多くの皆様とともにこの哲学を学んでいこうと思っております。

これからも、未来の子供たちのために、「一般社団法人 森の防潮堤協会」への皆様のお力添えを何卒よろしくお願ひ申し上げます。

一般社団法人 森の防潮堤協会 理事長 日置道隆

一般社団法人 **森の防潮堤協会**



「いのちを守る森の防潮堤」ってなに？

私たちは、自然の恵みからいのちをいただいで生きています。その中心となるのが緑と生き物たちがいっぱい土地本来の多層構造の木々による多層群落の森です。多層群落の森をつくることは、未来の子供たちが元気に生きていくためにとても大切なことです。また、津波災害時には多層群落の森が緑の壁となり、津波を砕き、そのエネルギーを分散させ、私たちのいのちと心と財産を守ってくれる「いのちを守る森の防潮堤」となります。



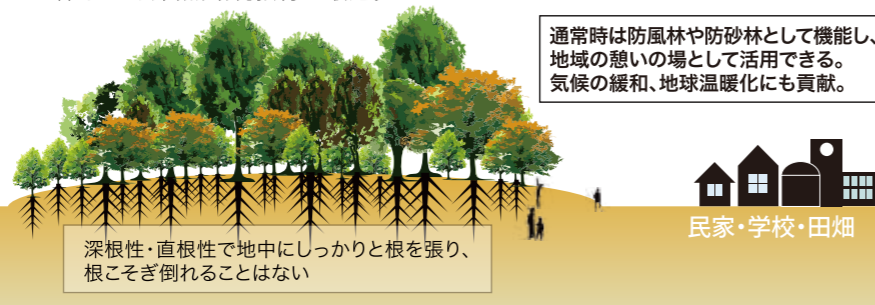
これからの防風林 (いのちを守る森の防潮堤)

【特徴】

それぞれの土地の樹種が基本。その土地本来の深根性・直根性の様々な樹木が互いに支えながら成り立つ森は、最も自然の力強い状態であり、病気や害虫にも強い。多種のポット苗を混植密植させて、植えてから2～3年は除草しなければならないが、あとは管理不要。世代交代を重ねながら、次の氷河期が来る9000年は保たれる。将来、超高木は択伐して地域経済に役立たせる。後継樹が待っている森の防災環境保全力を維持しながら地域と共生する。人為的影響がなければその土地にあるべき森なので、自然環境教育に最適。

その土地本来の色々な種類の常緑広葉樹(潜在自然植生)による森
(高木・亜高木・低木・草本植物による多層群落の森)

高木:タブノキ、スタジイ、アラカシ、ヤマザクラ etc
亜高木:ヤブツバキ、モチノキ、ユズリハ、シロダモ etc
低木:ヒサカキ、ヤツデ、シャリンバイ、トバラ etc



【引き水時】

引き水の際には、漂流する人々や、財産が海に流出するのを食い止めることができる。



「いのちを守る森の防潮堤」はどうつくるの？

「いのちを守る森の防潮堤」は、沿岸部に高台をつくり、そこに土地本来の高い木から低い木まで色々な種類の木々を植えて多層群落の森をつくります。私たちは、土地本来の木々のドングリを拾い苗木を育てています。2～3年の育苗を行い、植樹します。20～30年後には立派な多層群落の森になります。未来の子供たちへ、私たちに今できること。いのちを守る森を届けましょう。



ドングリから苗木を育てて植樹します。



ボランティアさんありがとうございます。たくさん芽がでますように。

①～③大勢のボランティアさんの協力をいただきながら、地域性を重視し、土地本来の自生樹木のドングリを採取しています。採取したドングリを、使用できるものと、できないものを選別します。ドングリを植えます。発芽まで、保水状態などの管理をします。



おっ！ボクにも！

④～⑥暖かい春を待つ、無事に発芽。1本ずつポットへお引越し。子供たちにも手伝ってもらっています。この小さな苗木が未来の子供たちへ残す森となります。

ワイ！たくさん芽がだよ。



みんな寄り添って春がくるまでがまんよ。

⑦～⑩東北の寒い冬を乗り切るため、秋～冬はハウスで春～夏は外で育苗します。植樹できる大きさに育つまで2～3年、それまでしっかり、水やり、雑草取り等の管理をします。植樹祭を行い、大勢のボランティアさんと一緒に森づくりを行います。植樹後2～3年は雑草取り、等の管理が必要です。20～30年かけて本物な森になります。

ボクもそろそろ植えてもらおう！

シンポジウム開催

この活動を多くの皆様にご理解いただくために、定期的にシンポジウムを開催しています。

平成27年3月開催 第3回国連防災世界会議(仙台) 森の防潮堤推進シンポジウム(右写真)

こんな活動もしていますよ。

⑩ 育樹 6月～9月

いのちを守る森の防潮堤 提唱者



宮脇 昭 (みやわき あきら) 森の防潮堤協会 名誉会長

1928年岡山県生まれ。広島文理科大学生物学科卒。理学博士。ドイツ国立植生園研究所研究員、横浜国立大学教授、国際生態学会会長等を経て、現在は横浜国立大学名誉教授、公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター長。紫綬褒章、勳二等瑞宝章、ブループラネット賞(地球環境国際賞)等を受賞。『日本植生誌』全10巻(至文堂)、『植物と人間——生物社会のバランス』(NHKブックス)、『緑環境と植生学——鎮守の森を地球の森に』(NTT出版)、『鎮守の森』(新潮社)、『瓦礫を活かす「森の防潮堤」が命を守る』(学研新書)、『森の長城が日本を救う!』(河出書房新社)、『森の力』(講談社現代新書)など著書多数。現場主義、実践主義の植物生態学者として、これまで国内外1700か所以上で4000万本以上の木を植えている。資料映像「レジェンド・オブ・ザ・フォレスト 宮脇昭 87歳と木を植える子供たち」

資料映像



森の防潮堤協会 理事長



日置 道隆 (ひおき どうりゅう)

昭和37年生。第44世曹洞宗輪王寺住職 宮脇昭氏が提唱する「その土地本来の樹木による防災・環境保全林づくり」に賛同し、平成16年より潜在自然植生理論に基づく植樹活動を開始。8年間かけて境内に約60種類 33,000本のふるさとの木々を市民の皆様と共に植樹。子供達に「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」を組み込んだ文明の創造の大切さを伝えるため植樹マンを考案。キャラクターを通して国内外において植樹活動を展開。河北新報の「座標」にて仏教者からみた物心両面における植樹活動の大切さを執筆。学術雑誌「生存科学」に数回、仏教と植樹の関連性について投稿。東日本大震災1ヶ月後、宮脇昭氏より「森の防潮堤」の提案を受け、宮脇昭氏のアシスタントとして津波被災地の植生調査を行う。